



恋 楽 晩 餐 会
 誰と寝るかという重要な問題

レストラン“ロッシーニ”に迷い込んだ女優志願のブロード娘。彼女がそこで出会ったのは、終らない恋愛ゲーム。

ディアーナ・フィルム製作 監督：ヘルムート・ディートル 脚本：ヘルムート・ディートル＋パトリック・ジュースキント

出演：ゲッツ・ゲオルグ マリオ・アドルフ ハイナー・ロイターパッハ グートルン・ラントグレーベ ヴェロニカ・ファレス ヨアヒム・クロル

提供：丸紅＋M3エンタテインメント 配給：ビターズ・エンド 1996年・ドイツ映画・114min・2:2.35シネマスコープ・ドルビー 私を召し上げられ。

R o s s i n i oder die mörderische Frage, wer mit w e m s c h l i e f

97年、ドイツで驚異的な観客動員を記録した、ウササの“悦楽映画”、ついに登場!

ドイツ本国で345万人が駆けつけ、同年に公開された『フィフス・エレメント』『フル・モンティ』など欧米の並いるヒット作を追い越して、驚きの超大ヒットを記録。



仕事と女、どちらも彼らを悩ませる...

そればかりか、ドイツのアカデミー賞に当たるドイツ映画賞では、『ビヨンド・サイレンス』を蔵落として作品賞金賞、監督賞、助演女優賞(メレト・ベッカー)、編集賞の計4部門を制覇! また、ヴァアエティ誌(97年6月9-15日号)では「この10年で最も洗練されたドイツ映画」と最大級の賛辞を浴びるなど、興行的にも批評的にも近年のドイツ映画最大の注目作が、遂に日本で公開される!! 『パンディッツ』『ラン・ローラ・ラン(仮題)』などドイツ映画の公開がラッシュ、

新しいムーブメントが起こること必至の今年、とにかく必見の作品だ!!



「白雪姫」男たちの理想の女?

レストランで繰り広げられる、男と女の欲望の“饗宴”

ミュンヘンにあるイタリアン・レストラン“ロッシェニ”。食欲を満たすだけではもの足りない、ここはさまざまな欲望に飢えた人々の集う場所だ。ベストセラーとなった小説「ローレライ」を映画化しようという企画が持ち上がる中、4人目の妻が浮気中の映画監督、詩人と愛人を取り合うプロデューサー、ネタをかき回り男をあさる女性ゴシップ記者、美人ウェイトレスに片思いを寄せる小説家etc...が、それぞれの悩みを抱え、夜ごとデザイナーにやって来る。展開されるのは、お互いを牽制し、騙し合い、自分の欲望を満たそうと、あらゆる手を使って行われる駆け引きのゲーム。

彼らを翻弄する美しいブロード娘が登場し、人の良いオーナーまでもがその渦中に巻き込まれて、事態はますますエスカレートし、混乱を極めてゆく。だが、思いがけない結末が、そこにいる人々を待ち受けていた。夜は彼らを包みゆくりと更けてゆく...

誰が、誰と?

大人の関係を、大胆に、繊細に、エロティックに。

監 督は長編は2作目ながら、製作者、TVシリーズの監督として70年代からキャリアを積んできた俊英ヘルムート・ディートル。92年のデビュー作「シュトinker・ヒットラーの贗作者たち」がアカデミー賞外国語映画部門にノミネートされ、第5回東京国際映画祭では脚本賞を受賞した才能を、存分に発揮している。また、共同脚本として「香水」「ゾマーさんのこと」で世界的に有名なドイツの現代作家、パトリック・ジュースキントが参加。内容は大胆に、人物の描写にはユーモアと繊細さを散りばめて、入り乱れる個性的な登場人物たちを縦横無尽に動かす二人の手腕は、見事というほかない。なかでもドラマを動かすことになる、ブロード娘の清純さと妖艶さを合わせ持ったキャラクターは、エロティックな魅力に溢れている。キャストにはドイツ映画賞3度受賞のゲッツ・ゲルゲ、『ブリキの太鼓』『フランチェスコ』のマリオ・アドルフ、『ふたりのロッセ』のハイナー・ロイターバッハなどベテラン陣に、ヴェロニカ・ファレス、メレト・ベッカーら若手の実力派を配し、ドイツ映画界の名優たちが贅沢に顔を揃えている。

この映画をより美味しく
召し上がっていただくための
“隠し味”たち

映 画化の企画が持ち上がる「ローレライ」は、ライン川のほとりの岩の上で歌を歌い、聞き惚れた船人を沈めてしまうという金髪の美しい妖精の物語。ハイネの詩とジルヒャーの曲で有名なこの物語は、ドイツでは詩、物語としてさまざまに語り継がれ、妖精は美の象徴ともされている。オーディションに“自称金髪美人”たちが大挙押しかけ、そんな伝説の主演を狙っている。その勘違いぶり(!?)も含めた「美の競演」も見どころの一つ。



治療か、それとも秘密の...

また、日本では近年、グリム童話の初版本が翻訳され、翻案小説も倉橋由美子(「大人のための残酷童話」)、桐生操(「本当は恐ろしいグリム童話」)などの著作が次々と出版される一大ブームだが、この映画にも、そんなブームの元となったグリムの精神—教訓やセンシメンタリズムよりも、ブラックな毒と笑いで物語を語る現実風刺の精神—が息づいている。「ローレライ」を射止めようと最後に現れる“本命”のブロード娘(ヴェロニカ・ファレス)が、『白雪姫』と呼ばれながらもいつも男たちを迷わせていく存在なのも、きっとそこに理由があるはずだ。



ニヨッキが取り持つ恋!?

今年はドイツ映画ブームの兆し!? いきなり真打ちが登場!!

5月8日(土)~21日(金) 連日PM8:30~ (終映10:30)

★前売鑑賞券¥1400(当日一般 ¥1700の処) 発売中!!
劇場窓口は市内各所のプレイガイド、ぴあ、ローソンなどでお求めください。

限定30枚

劇場窓口で前売券をお求めの方に特製ポストカードをプレゼント!!

心斎橋アメリカ村 BIG STEP 4F O6
パラダイスシネマ (6282)
1460